

2016 年度 自己点検・評価報告書

青森明の星短期大学

■ 目次

●保育専攻	01
●介護福祉専攻	02
●教育支援部	03
●教育事業部	04
●学生支援部	05
●入試広報センター	06
●キャリア支援センター	07
●総務課	08
●教務課	09
●学生課	10
●入試広報課	11
●図書館	12
●明の星学園生涯学習センター	13
●青森明の星短期大学国際交流センター	14
●地域連携センター	15

部 署 名 保育専攻

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 「卒後支援プログラムの立案・実施」 ・母校との「つながり」の基礎を構築するための取組みとして「ホーム・カミングデー」、「出前講座」等の実施	今年度は、「母校とのつながり」をテーマに「ホーム・カミングデー」を6月に実施し、その後は、学生祭において「卒業生コーナー」を設け、教員が輪番制で待機し、卒業生の近況を聞きながら交流を深めた。	B	次年度は、引き続き「卒業生とのつながり」を基盤に、卒後における教育機会や学びの場の「広がり」を意識しながら、卒業生の教育・保育分野における専門性の向上に資する具体的な支援を行っていきたい。
2. 「子育て支援の企画・立案・実施」 ・幼児を対象とした学内での「遊びの広場」の開催	学内では「遊びの広場」を開催できなかったが、新町キャンパスにおいては、「造形展」を開催し、学生の作品を広く地域の子ども達に公開出来た。また、近隣の保育施設に学生有志と教員が出向き、絵本の読み聞かせやパネルシアターを披露した。さらに、青森県立美術館主催の「おはなしフェスタ」に学生有志と教員がコラボで参加し、子ども達や保護者より好評を得た。	B	学内施設改装後のスペースを利用した子育て支援の企画を立て、その企画を実行に移す。また、保育者としての資質・能力を高めるための体験学習となるように、学生達が更に多くの保育現場に出向き、学習成果を発表できるようにする。
3. 「実習ガイドブックの完成（製本）」	実習ガイドブックについては、昨年度末に製本し、今年度は、実習指導の授業において活用した。現在、実習担当者会議を開催し、今年度の実習指導全般及びガイドブックの内容等の見直し・改善を行っている。	A	実習指導の更なる質の向上を目指し、実習ガイドブックの内容等の見直し・改善を継続的・弾力的に行っていく。
4. 「保育力・教育力を高めるための取組」 ・各種講演会・研修会への学生の参加促進	本学で6月に開催された「全国大学音楽教育学会」の記念講演へ1年生全員が参加出来るよう調整した。また、劇団四季のミュージカルや各種音楽コンサート等への参加も推奨した。	B	学生の保育力・教育力の向上のために、引き続き学内外の講演会・研修会への学生の参加を促していく。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

子育て支援の企画を具体的に実施してほしい。

部署名 介護福祉専攻

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 小冊子「かんたん介護入門」の有効活用	オープンキャンパス、むつ市民大学、各種出前講座等を精力的に行い有効活用した。講座終了後にはアンケートを実施し、PDCA サイクルにのせ実行した。様々な感想が得られ、講座は概ね好評価であった。受講延べ人数は 274 名。	A	対象者別に内容を吟味する。対象者とは、小学校低学年・高学年、町内会の高齢者、高校生等である。次年度も今年度同様実施し、幼稚園訪問も視野に入れる。
2. 社会人としての基礎力（礼儀やマナー）の実施及び検証	介護実習評価表に掲載されている「実習態度」、「礼儀」、「身だしなみ」の項目について、各実習終了後に学生自身による自己評価を合計 3 回実施し集計を行った。	B	実施したアンケート結果の分析を行い、本学学生における社会人基礎力の課題を洗い出した。
3. リカレント教育の充実	今年度はリカレントを学生祭に実施した。参加人数は 21 名（2015 年度卒業生：9 名、2014 年度卒業生 5 名、それ以前：7 名）で昨年度よりも増加した。実施内容は「近況報告とよろず相談」及び「アンケート調査」であった。	A	次年度も学生祭に実施する。近況報告や相談のみならず、その内容によっては個別指導も検討する。
4. コミュニティ福祉専攻としての教育目的の確立	学科の教育目的・目標と 3 つのポリシー（専攻毎の内容を含む）の見直しを行い、本学の教育目的・目標との関連性とその内容を明らかにした。また、コミュニティ福祉専攻のカリキュラム一覧を作成し、各コースでの取得資格や履修科目等を明確にした。	A	キャリアビジネスコースの初年度として、問題点については柔軟かつ素早く対応し、教育システムの構築へ繋げる。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

社会人としての基礎力の分析結果を公表してほしい。

部署名 教育支援部

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 学生振返り記録システムの活用と検証 ・必修科目を軸とした記録システムの活用 ・ボランティア活動、サークル活動等の記録促進	・各専攻及び各学年の必修科目においてポートフォリオ入力を行った。各授業においてもレポート等の保存を行うようにした。 ・ボランティア活動・サークル活動の入力は学生の自主性を尊重した。	B	・システムの活用状況に個人差があるが、全体指導を学期はじめ及び学期の終わりに行い、学期途中においては、機会のあるごとに活用を促すことを継続していく。
2. アクティブラーニングの推進 ・授業評価アンケートに基づく授業改善の実施（アクティブラーニングを取り入れた授業の実施・評価・改善）	・教育事業部と連携し、アクティブラーニングを取り入れた授業を各教員が実施し、2月のFDで報告会とシェアリングを行った。 ・授業評価アンケートに基づく授業改善は、授業改善計画として、各教員からの提出を促している。	A	・各教員が実施するアクティブラーニングを取り入れた授業計画立案・実施および実施報告を行う機会を設ける。 ・3402教室の活用について検討する。
3. 学修成果の測定と評価手法の研究 ・カリキュラムマップ及び科目コードの見直し ・本学における学習成果の明確化、測定方法と客観的な評価手法の研究	・新3つのポリシー策定に伴い、カリキュラムマップおよび科目コードの見直しを行った。 ・第三者評価報告書作成により、本学における学習成果とその測定方法を明確にした。アセスメントについては不十分であった。	B	・DPとカリキュラムマップを再検討し、各教科のシラバスをDPに関連づけたものにする。 ・ループリックによる評価など、学修成果のPDCAサイクルを再考する。
4. 地域連携・参加の教育課程への反映 ・フィールドスタディやプロジェクトの単位化（次年度からの新課程科目「プロジェクト演習」等の内容検討）	・ビジネス実務士の教育課程編成を行い、協会に申請し教育課程が認可された。科目の1つである「プロジェクト演習」の授業内容および実施方法等を検討した。	A	・「地域ボランティアワーク」「インターンシップ」「プロジェクト演習」などの地域連携・参加型の教育課程の内容を更に充実させる。 ・施設・資源の活用を検討する。
5. カリキュラム検討 ・カリキュラムの検討及び改善 (共通基礎カリキュラム及び専攻ごとのカリキュラムについて)	・ビジネス実務士の教育課程を反映するコミュニティ福祉専攻のカリキュラムを検討した。 ・保育専攻では、2018年度からの新設科目「在宅保育」の開設および新資格「ベビーシッター」を設けるための検討をした。	A	・共通基礎科目の見直しを行う。 ・コミュニティ福祉のビジネス科目の補強を検討する。 ・+αの資格と専攻の科目の連携を検討する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

カリキュラムマップを3つのポリシーとより整合性のあるものに変えてほしい。

部署名 教育事業部

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. FD・SD研修の全学的な参加および研修成果による各授業の活性化 (アクティブラーニング等の実施が課題)	11月に公開授業週間、12月に指定参観科目の参加とシェアリング、2月に「アクティブラーニング実践報告会」を行い、年間を通して、アクティブラーニングの実践と啓蒙に力を入れてきた。外部のFDに関する研修会(3回)への参加についても、学内への還元に努めた。また、学外のFD研修会の案内も随時周知を行った。 SD研修会については、今年度は学長のリーダーシップにより、学内はもとより、他大学との協同等、事業の拡大と充実が見られた。	A	次年度より新たなアクティブラーニングの教室の設備環境が整う。そこで、次年度のFDのテーマとして「本学の設備を生かした授業の展開」について、研究および実践を具体化していく。
2. 高大連携事業の活動内容の充実および他校との事業拡大、及び募集の拡大	これまでの青森明の星高等学校との入学前プログラムの実施、青森中央高等学校とのキャンパス体験授業プログラムの運営に加え、今年度は、学長の尽力により青森商業高等学校とのキャリアビジネスの履修プログラム等、新たな事業の拡大が実現できた。	A	青森中央高校は、高大連携の窓口となる担当者の異動が懸念され、引継ぎを入念に行う必要がある。高大連携事業が募集広報の一助となるよう、高校生が集まる企画と工夫が必要。
3. 科研費等の助成研究の申請件数増に向けての取り組み	科研費、またその他の研究助成の公募について、随時学内への周知を行ってきた。科研費については、申請3件、採択(分担研究者)1件であった。その他の助成研究等については、若手、事務職員による、地域や青森市内の他大学との共同研究等が採択された。 一方で研究倫理に関する規程および研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインを踏まえた体制についても整備を行った。	A	引き続き、外部の研究助成の公募の周知をはかるとともに、申請件数を増やしていく取り組みが必要である。申請件数を増やすためには、個人の申請に委ねるだけでなく、学内であれば専攻、委員会等の部署等による共同で行う研究についても推奨していく。
4. 教員免許状更新講習の運営 (定員超過に対する対応と次年度の講座のニーズに応じた検討等)	受講者数の定員超過への対応については、出来る限り受け入れる方針で、講座を反転するなど柔軟に対応した。各講座ともに事後の調査による受講者の評判は概ね高く、内容についても受講者のニーズに応じた講座であることが確認された。	A	今年度の受講者数から次年度の講座の受講者数の予測を立て、定員数を改善している。 申し込み初日の殺到に対しては、申し込み日に受け付け開始時間を明記し、状況がモニタリングできるよう対応する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

ICTの具体的な活用方法を検討してほしい。

部 署 名 学生支援部

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 学友会活動の支援の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭、クリスマスの集いは特に問題なく終了した。学生祭は学友会執行委員から学生への情報が十分に伝わらず、学生の協力が得られないことが反省として挙げられた。 ・サークル活動については、昨年度の反省を踏まえその成果を学生祭で発表することが出来た。 ・フリータイム（水曜日4校時）に授業があり、学友会活動の時間があまり取れなかった。 ・卒業アルバムの代わりに学友会執行委員でDVDを制作し、卒業生に記念として贈呈した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学友会執行委員と学生、サークルとの連絡体制をしっかりと確立する。 ・学友会に関わる活動の連絡は掲示板を活用し、学生への周知徹底を図る。 ・学友会活動の時間を確保する。 ・DVDを制作する時間が十分取れなかったため、次年度は計画的に行いたい。
2. 学生支援のための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学制度を希望する学生は概ね採用となった。ただし、あけのほし奨学金については、本奨学金委員会の選抜で学力不足により2名選抜のところ1名となった。 ・卒業週間に全学生に対し、学生ラウンジやカフェテリア等、アメニティに関するアンケート調査を実施した。 ・進路、人間関係、学生生活等で相談室を利用した学生は10数名いた。ほぼ解決、改善が見られたが、一部の学生は長期的な相談が必要な状況である。 ・「みんなの声」の投書は無かった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学生の選抜には経済事情、成績だけではなく面接の実施も検討する。 ・アンケートの調査結果を公開し、環境整備に努める。 ・解決・改善が見られない学生に対しては相談室と密に連絡を取りながら対応をしていく必要がある。 ・オリエンテーション等で投書箱があることを学生に周知させる。
3. 課外教育・活動の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・課外教育（各種研修会） フレッシュマン・ゼミでの「生活安全セミナー」では講話と実践を実施し、防犯、SNSに関する注意喚起を行った。 ・課外活動・地域貢献事業 今年度のボランティア活動は回数58回、人数213人であった。ボランティアの受け入れ先は多岐に亘り、参加した学生数も増加した。 ・防災関連 前期・後期とも火災を想定した避難訓練を行った。訓練実施は役割担当、学生・教職員の協力を得て、滞りなく行われた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに関する掲示板の活用を図り、地域貢献に関する情報を提供していく。 ・防災関連は日頃より想定できる災害時の避難方法や訓練の目的を明確にする必要がある。また、火災以外の防災訓練も計画し、防災に対する意識づけをしていく。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

学生の声を取り上げ、改善につなげてほしい。

部 署 名 入試広報センター

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 新コース紹介にむけた広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・新コースについての紹介ペーパーを作成して広報を行った。 ・高校訪問については学校長宛と進路指導宛とに分かれ、訪問者を限定してより細かくアピールした。 ・11月から2月にかけて、できるだけ多くの会場説明会に参加し、新コースの紹介に努めた。 ・12月に青森市周辺の高校教員を対象に説明会を開いた。 ・函館での広報活動を青森大学・青森中央学院大学と企画・実行することになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新コースの新入生及び新2年生からコメントペーパーを作成し、出身校に広報していく。 ・会場説明会は参加時期と参加会場の取捨選択が必要。 ・函館での広報活動を含めた高校訪問を計画する。
2. オープンキャンパスおよび学校見学会の内容見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・説明内容の確認およびアピールポイントの改善を行った。 ・ハガキによるお礼状や次回開催案内を送った。 ・学生スタッフによる学校紹介や受験体験談の紹介などを取り入れた。 ・学校見学会において送迎バスを提供した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス情報をより頻繁に発信していく。 ・昼食時間など、学生スタッフとの交流する時間を設ける。 ・提携高校をはじめより多くの高校に見学してもらえるよう案内をしていく。
3. ホームページ（以後 HP）等によるメディアの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログの更新が滞らないよう、入試広報センター担当者と学生の活動状況を確認した。 ・テレビコマーシャルを放送した。 ・HPに専攻を紹介するビデオを掲載した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい情報に HP の更新していく。 ・専攻紹介ビデオにキャリアビジネスコースも追加する。 ・テレビコマーシャルは、内容と放送期間を検討する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

高校訪問等について全学的な取り組みを検討してほしい。また、説明会等の情報をこまめに公表してほしい。

部 署 名 キャリア支援センター

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 企業説明会への出席率増加	① 6月・7月の二度にわたって述べ61社の施設及び企業に参加していただき合同企業説明会を実施した。 ② 第1回目はほぼ全員が最後まで参加していたが、第2回目の実施では欠席及び途中退室した学生が4分の1いたのは残念である。	B	・事前の周知により参加率は良かったものの2度目の開催時期(7月で非常に暑かった)の検討と、外部の企業説明会への参加方法等について検討が必要である。
2. 企業説明会の充実	① 上記同様、6月・7月の二度にわたって施設及び企業に参加していただき合同企業説明会を実施した。 ② 合同企業説明会自体は大盛況であり次年度以降も実施を望む声や、一般企業も入れて欲しい等種々の希望も出ていた。	A	・参加企業数の受け入れにも限度があり、全ての希望を取り入れるには難しい点もあるので、次年度の実施は確実とするが、回数及び参加企業等については検討したい。
3. キャリアサポートと進路ガイダンスの連携	① 進路ガイダンスの位置づけが、2年生でのオープン設定であったため出席率が決して良いとはいえなかった。 ② キャリアサポートと同時に実施した合同企業説明会は連携することが出来た。	C	・次年度は進路ガイダンスが無くなり、キャリアサポートⅡを実施するので、今年度のキャリアサポートⅠを基礎とし進めていきたい。
4. キャリア支援ハンドブックの活用	① 外部講師を活用しての授業編成が多かったため、キャリア支援ハンドブックを具体的に活用しての授業は実施出来なかった。 ② ページを指定して活用を促す程度だったので活用頻度が低かった。	C	・キャリア支援ハンドブックの活用はむしろ2年生になって具体的に活動する段階で有効に活用できる部分も多い。よって1年2年の学習内容のすみわけを検討したい。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

専攻と連携を密にしながら、業務を実行してほしい。

部署名 総務課

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 会計処理について基本的事項を理解し、会計決算資料作成の簡素化に努める	①基本的な会計処理の通年を通して基本的事項については、経理研修会・経験者（課長）の指導助言により理解した。 ②期中・期末の監査時に作成した資料は、会計ソフトを円滑に活用し、複数の職員が連動・連携しながら作成した。 特に学納金処理については簡素化した。	A	基本的事項をマニュアル化し、会計ソフト処理の活用範囲を広める。
2. 大学業務に関する知識を深める	S D研修会、経理研修、共済講習会等に参加し、業務に関する知識を深め、業務に役立てた。特にS D研修会は、私学事業団谷地センター長の講話により、青森県の大学を取り巻く環境について学び、意識改革に繋がった。	A	研修会・講習会に積極的に参加し、業務の知識を更に高めたい。
3. 明の星学園制定規定の「経理規則・経理規則施行細則」、「固定資産及び物品管理規定」及び「旅費規則」等の内容について理解した知識を身につけ、それに基づいた業務遂行力を高める	今年度から導入された内部監査において、第1回目に指摘された点について改善するために「起案書」作成を徹底し、業務遂行力が高まった。第2回目に固定資産及び物品管理規程に基づく業務の一部に指摘された。	A	第2回目に指摘された事について改善する。
4. 学生納付金延納者の納入状況の明瞭化する	未納者について各専攻に協力をお願いし、学生への督促を行った。	A	学納金等未納者「合格者・在校生」への対応についてマニュアルを作成し、システム化する。
5. 公的研究費の管理・監査のガイドラインに伴う規定の整備する	文部科学省の研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づき、教育事業部等と連携を取りながら、「研究活動上の不正行為の防止に関する規定」及び「公的研究費の不正防止計画」が定められた。	A	文部科学省の公的研究費の管理・監査の実施基準に基づき、関係部署等が密に連携して、更なる管理・監査体制を整備する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

研修会や講習会に参加した内容を、事務職員内で報告会を持つなど共有してほしい。

部署名 教務課

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 履修登録、資格確認等の迅速化とチェック体制の強化	学生の提出物の提出期間を短めに設定したため、速やかに集まった。しかし未提出者については、掲示や各専攻に協力をお願いしても、提出まで時間がかかった。チェック体制については、課内での情報を共有し、強化につなげた。	B	未提出者を減らすための対策の整備と課内での情報共有、チェックの徹底
2. 教育支援部・教育事業部との情報の共有と共通理解等の連携強化	教育支援部・教育事業部と細部にわたり情報を共有し、各専攻とも共通理解を深めるよう努めた。そのため双方でチェックしあいながら業務に取り組むことができた。	A	教育支援部・教育事業部との更なる連携の強化
3. 教室や情報機器及び視聴覚機器等の定例チェックと整備	毎月教室等の点検を実施し、メールで学内にお知らせした。また情報機器等の不備が起きた場合は、速やかに整備するようにした。	A	情報機器などは、突然不調になることもあるため、引き続き点検と速やかな対応をする。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

補講の掲示をできるだけ早くしてほしい。

部 署 名 学生課

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 合同企業説明会の計画・実施	2年目を迎えた合同企業説明会の計画に当たっては、保育・介護に加えて、一般企業を加えるということを念頭においたが、結果的には2社のみ参加であった。また、教室からジムナーズへ会場を変更して実施した。	B	一般企業の参加数の向上が課題であるが、本年度の実績をもとに改善は図れるものと考えている。会場については、準備・撤去共に学生の協力が今年度同様得られれば問題はない。
2. 進路ガイダンスとキャリアサポートの運営	運営に関しては、合同企業説明会（2回）、中里高等とのコラボ企画、ジャムづくり体験等、従来の講演のみではなく、準備に多くの時間をとった。	A	準備の多い内容が増えたが、合同企業説明会の定着、中里高校の全校参加など概ね良好に行えたと思う。会場がジムナーズが多く、空調の管理に改善が必要。
3. 学生支援のための事務室	カウンターでの業務が主であり、学生第一で接した。	B	短い休み時間を利用してきている学生の相談中に、たびたび話しかえられ学生との話が中断しなければいけない場面が多く、学生第一の姿勢に問題がある。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

学生支援部との連携の上、学生支援に当たってほしい。

部 署 名 入試広報課

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 受験生の動向分析 ・多方面からのデータを基とした高校生の動向分析、及び、状況に応じた広報戦略	資料請求および説明会の状況ならびに高校訪問を通して志望状況を見極め、志願につながるよう広報活動に役立てる。	C	高校毎のカルテ形式の情報ファイルを作り、新入生が出願前の動向から卒業までの情報を高校毎にまとめる。
2. アンケート内容の詳細化	オープンキャンパスの感想だけでなく、要望や志願の有無についても記入してもらうようにアンケート内容を検討した。	A	今年度の内容を元により充実させ、募集に活かしていく。
3. 学校見学会への対応	送迎バスの手配を行い、見学会には体験授業・模擬授業を取り入れ、その内容が次回のオープンキャンパス参加に繋がる内容になるよう検討する。	A	高校からの見学時期と本学教員の日程を調整し、体験型の見学を増やしていく。
4. 広報誌の編集について	キャンパス News とフロレテ・フロレスの内容を検討する。	B	引き続き内容の検討を行う。 また、編集作業が遅れないよう計画を検討する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

受験生の動向分析と広報戦略を学内に公表してほしい。

部署名 図書館

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 図書会報の発行	「図書館だより」第1号を発行した。推薦図書の紹介(学長、学生)、図書館の取り組みの紹介と2016年度図書館利用状況を掲載した。	A	今年度は1回のみでの発行となり、図書館からの情報発信は十分出来なかった。次年度は発行回数を増やし、掲載記事の充実を図り、図書館利用の促進に努めていきたい。
2. 図書館企画の充実	今年度は①絵本の読み聞かせ講座、②図書館であそぼ、③読書感想文コンクール、④ブックハンティングの4つの取り組みは計画どおり実施することができた。①は参加学生にとって読み聞かせのスキル向上と、実習に役立つ講座として評価が高かった。しかし、講座の参加者募集に苦労した。②は学生の協力を得て、絵本の読み聞かせ、紙芝居、エプロンシアターとワークショップを実施した。参加者(園児、保護者)からは好評を得た。③は応募数が昨年より多かった。④は学生自身が図書選定を経験したことで図書館への関心の喚起となったようである。	B	企画・運営、広報(募集方法、講座の開催時期、内容)の見直しを図り、利用者に図書館の取り組みについての情報発信を強化していきたい。
3. 図書館利用の推進	新入生を対象に、図書館オリエンテーションやフレッシュマン・ゼミで図書館紹介や図書館利用についての指導を行った。 また、授業に関わる図書資料(教員からの推薦図書)の展示コーナーや新刊図書の紹介を学生掲示板で行った。	B	学生を対象に図書館利用に関するアンケート調査を実施し、課題を見つけ、その改善策を検討する。また、授業担当者と図書館との連携を密にし、学生の図書館利用の推進を図る。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

学生の視点に立った図書館利用の推進を図ってほしい。

部 署 名 明の星学園生涯学習センター

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. センター講座	① 「懐かしの歌を歌う」「教員の資質向上対策講座」「ゴードンメソッドによるコミュニケーション」の3講座を開設する。 ② 講座の周知を工夫する。(ホームページ、チラシ、ポスター、免許更新講座の時にパンフレットを置くなど)	A	・周知をより一層工夫する。
2. 公開講座	① 青森コンソーシアム(2回)の一般の受け入れをする。 ② 広報活動を多様に行う。(短大の先生方のご協力をいただき、実習観察の時にPRする、広報あおもりに掲載など)	A	・地域連携の行事と重ならないように、日程調整をする。
3. 教育カウンセラー養成講座及び免許状更新講習	① 今年度の講座及び講習を計画通り実施する。 ② 短大との協議の上、申請に間に合うように次年度の内容と講師を選定し依頼する。(次年度の計画)	A	・スムーズな運営になるように、一層工夫する。
4. 他市との連携	① むつ市教委の市民大学の会場提供と講師の依頼と協力をする。四年連続の事業である ② 中泊町の「高齢者大学」の会場提供と講師の依頼と協力をする。今年度からの実施である。	A	・今年度も好評であったので、より一層の充実を図る。
5. 短大と連携した事務と広報	① ピアヘルパー、教育カウンセラー補、おもちゃインストラクターの事務を行う。 ② 資格取得のメリットの宣伝・説明をし、学生の受講をサポートする。	A	・合格率アップのための工夫をする。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

受講者増に向けた取り組みをより一層推進してほしい。

部署名 国際交流センター

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
1. 「青森市在住の留学生との交流活性化」 ・中国に興味のある学生に対し、市内の教育機関、県および市の日中友好協会の企画等への参加の奨励	・留学生の交流会等は掲示等での案内を行ったが、本学学生の参加はなかった。(青森県国際交流協会、青森市日中友好協会、中国語の会等)	B	・市内で留学生を多数受け入れている大学の行事の紹介をする。 ・中国への留学希望者に対し、中国語講座や市内の留学生との交流を周知する。
2. 「海外研修のプログラム開発」 ・短期留学の内容について、行先や内容の検討	・語学研修(英語)希望者がいなかったため、従来のプログラム以外の新たなプログラム検討は行わなかった。	C	・語学留学先について、留学先・期間・内容等について検討する。 ・年度初めの早い時期から留学希望者の有無を確認する。
3. 「青森・長春教育学学術文化交流協会」 ・事業の活性化 ・講座やセミナー、留学生の交流を検討	・年次総会の計画及び実施、広報紙の編集及び発行を行った。 ・市内の留学生1名に協会からの奨学金を支給した。 ・中国への15周年旅行を計画・募集を行い、実施の見込みとなったが、国際情勢により中止となった。	A	・協会員の会員募集を行い、会の活性化につなげる。 ・交流事業の情報収集を行うと同時に、協会独自のイベントを企画立案する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

国際交流事業をより一層推進してほしい。

部署名 地域連携センター

今年度の計画 (Plan)	実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
<p>1. 本学の特色を発展し、地域の発展を重層的に支える取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 中泊町の福祉分野における一層の充実した関わり 	<p>○中泊町と浪打商店街との連携に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中泊町 中泊町夏祭り参加、中泊町町民文化祭（サークル出演・三上伸和夫妻コンサート）、中泊町通学合宿ボランティア、中泊町博物館「夏の企画展」佐々木高雄コレクション展、中泊町役場新庁舎落成式、学生祭中泊町コーナー設置、中泊町からの受託研究「中泊町における少子高齢化に関わる調査」実施 浪打商店街 定例役員会出席、夏祭り、うましあおもり直売市、もちつき大会、調査報告を商店会長へ 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生の地域参加と貢献を促す。 高等教育機関としての貢献のより一層の充実に努める。
<p>2. 地元企業の密なる連携の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元 NPO 法人との連携による学習機会の提供及び教育課程の改善 	<p>○地元企業との密なる連携に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 協定の締結 教育課程への意見聴取及び評価 奨学金の提供 <p>○協定による「しんまちキャンパス」の開設・運営に努めた。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> PR と計画的な運営に努める。 より一層の企画の充実を図る。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

しんまちキャンパスの活用をより充実してほしい。